

広大システム改革による女性研究者活躍促進

(実施期間：平成 22～26 年度)

実施機関：広島大学（総括責任者：越智 光夫）

プロジェクトの概要

(1) 新規養成女性研究者の採用計画

人件費ポイント全学調整分の3割程度をシステム改革分として確保し、理工農系の女性教員を採用する部局等に配分する。それにより、毎年度4名（平成22年度は3名）以上の理工農系の女性教員を採用する。

(2) 女性研究者養成のための取組内容

機関本部の人材育成推進室に「女性研究者キャリアアップ部門」を置き、全学レベルの教員育成・支援システム（メンタリングシステム、研究支援システム、研究者コミュニティ支援システム）を構築する。

(3) 期待される効果

理工農系研究科の女性教員数が倍増する。男女共同参画推進室および大学経営企画室と連携して教員育成・支援システムを運用することにより、女性教員の教育・研究における活躍を促進する。

(1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 女性研究者支援システム改革 | 取組の内容 | 実施体制 | 今後の進め方 |
|------|-------|---------------|-------|------|--------|
| A | a | a | a | a | a |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

人件費ポイントの全学調整分の3割を理・工・農学系分野の女性教員採用のために確保する採用システムは、確実な女性教員の採用促進に繋がっており評価できる。また、全学的な女性教員の採用、昇任、養成のためのシステムを整備しており、今後も継続的な女性教員の採用、昇任が期待でき評価できる。

- ・ **目標達成度**：新規養成女性研究者の採用は所期の目標を上回り、また、機関独自に女性教員の採用を進め、理学、工学、農学系のいずれにおいても女性教員が増加しており評価できる。
- ・ **女性研究者支援システム改革**：人件費ポイントの全学調整分の3割程度をシステム改革分として確保し、理・工・農学系分野の9部局が女性限定公募を行う採用システムを構築したこと、また、理・工・農学系分野の優れた女性助教を准教授に昇任させるポストアップ制度を構築したことは評価できる。

- **取組の内容**：新規養成女性教員の採用において、所期の計画になかった上位職階（准教授、講師）による採用が3割を占めた。また、ポストアップ制度により、女性教員の上位職階への登用が進んだことは評価できる。さらに、研究力向上の取組が有効に機能し、発表論文数の増加や科学研究費補助金の採択率向上に繋がったことは評価できる。
- **実施体制**：学長のリーダーシップの下、理・工・農学系分野の9部局長からなる理系女性研究者活躍促進プロジェクトが新規養成女性研究者の採用計画の策定、実施、評価、改善というPDCAサイクルを担ったことは評価できる。また、教育研究評議会において各部局の女性教員採用割合が四半期ごとに報告され、全学的な推進体制が強化されたことも評価できる。
- **今後の進め方**：実施期間終了後も、人件費ポイント全学調整分を用いた、理・工・農学系分野における女性限定教員公募、ポストアップ制度による女性教員の登用を継続実施する予定であり評価できる。また、テニュアトラック教員採用のために使用するポイントの半分を女性枠とし、次世代女性教員の増加を図る今後の計画も評価できる。